

## 私を変えた先生との出会い

その先生との出会いは、小学4年生のときでした。山間の小規模校に、子どもさんを連れてやってきたその女性の先生は、包容力のある、お母さんのような先生でした。ギターが得意で、教室に置いたギターを弾きながら、よく歌ってくれました。

印象深い先生のごことはよく覚えているもので、鹿児島での大学生活の話や初任のときの話など、先生がしてくれたたくさんの話を10年以上経った今でも思い出します。

また、その先生は、子どものことをよく褒めてくれる先生でもありました。「紗智子さんは、よく通るいい声をしているね。」など、すごく嬉しかったことを覚えています。

中でも、先生が褒めてくれたことで、忘れられないエピソードがあります。それは、ある日の体育の授業のときのことです。その日は、ハードル走の授業でした。私は運動、特に走ることが苦手だったので、憂鬱な気分に参加していました。当然、タイムも遅く、周りより数秒遅れてゴールしていました。先生はそのとき、自信を無くしている私に気付いていたのだと思います。一度授業の流れを止めて皆を座らせ、私を前に呼びました。「何だろう。」とドキドキしている私の横で、先生は「みんな、紗智子さんの跳び方はとてもきれいだからよく見ていてね。」と言って、皆の前で跳んでみせるよう促しました。私が緊張しながらもハードルを跳ぶと、「おーっ。」と拍手が起きました。苦手なことが得意なことになった、忘れられない経験になりました。

この経験が、私が教師を目指すきっかけになりました。私は、あの時の先生のように、子どもに自信を与えられるような教師になりたいです。そして、いつか先生と一緒に働くことができたらと思います。

安在 紗智子  
(大学生)